

音楽科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058148

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



音楽科

鏡 千佳子

共同研究者 篠原 秀夫（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

本校は平成 29 年度から「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー」を主題に、研究を進めてきた。本校音楽科では、伝統文化に関する授業を通して、他教科とどのように関連し、どのような力を育成できるのかという視点から今までの授業を捉え直し、音楽の授業で伝統文化を扱う意味を考えて研究を進めてきた。

伝統文化教育の研究初年度の平成 29 年度は、三年生の雅楽の授業の取り組みにおいて「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」を重視した授業実践を行った。雅楽「越天楽」の特徴から、自分が思う「日本らしさ」について考える実践を行った。「日本らしさ」を感じる部分は、人によって異なる。明確な答えは出せないかもしれないが、自分が日本らしいと感じるところはどういうところなのか、何が日本らしさを感じさせているのかを考える良い機会となった。ただ、オーケストラと雅楽の違いやどこに日本らしさを感じるかということは考えることができたが、西洋と日本それぞれのよさを尊重するとともに、西洋とは違った日本ならではの美しさへの愛着をより一層図れるようなところにはまでは踏み込めなかった。本校が目指している資質・能力の育成にはやや届かなかったように感じる。研究の 2 年目に当たる平成 30 年度には一年生の民謡の授業の取組において「①日本の伝統や文化に関する理解」を重視した授業実践を行った。今まで歌ってきた歌と民謡の歌い方の違いについて体験を通して学び、曲種によって歌い方が違うのはなぜなのかについて考えた。様々な曲種による歌い方の特徴をわかりやすくするために、アニメの曲・合唱曲・日本歌曲・民謡を比較することにし、それぞれの曲の場合、どんな声で、どんな歌い方をしているかについてグループで意見交換をし、次になぜそのような歌い方をするのかについて話し合った。生徒の多くが、曲種に応じた発声があることに気付くことができたように思う。また民謡を実際に歌ったり、様々な地域の民謡の背景を学習したりしながら、さらに課題に迫っていった。今まであまり歌い方を意識したことがなかったという生徒が多かったので、歌い方の違いについて考える良い機会になったと感じた。

中学校の音楽の授業で「伝統文化」を扱うということは、そこには必ず意味がある。それは単にその伝統文化に詳しい人材を育てるということではない。その伝統文化が自分の感情やイメージ、生活と結びついたとき、自分にとって価値のあるものとして、何か意味のあるものとして、存在するものとなることが望まれる。中学生という多感な時期の生徒が、伝統文化をどう自分の生活と結び付けて考えていくかに迫れるような授業を構築していきたい。また、新学習指導要領に示されている音楽科の目標、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を目指しつつ、伝統文化教育を通して、伝統文化そのものだけでなく、それらを取り巻く様々な背景や文化、人、そしてこれからの未来を見据えていけるものの見方や考え方ができる生徒を育てていきたい。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

本校の研究副題「グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して」を受けて、今年度は三年生の「多様な音楽」の授業の取組において「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」を重視した。様々な音楽が影響し合ったり、融合したりして生まれている身の回りの音楽に着目し、音楽の多様性を理解できるような授業を目指した。

(2) 関連・連携を図った教科等について

現代にはクラシック、オペラや歌舞伎などの総合芸術、ジャズやロックといった様々なジャンルの音楽が存在する。どのジャンルの音楽にしても、それぞれの音楽が生まれた背景や地域の特徴などが大きく関連してくる。「多様な音楽」の学習では、社会科で様々な地域や歴史を学んだ内容が音楽科の授業につながってくると考えられる。

2. 成果と課題

今回の授業では、「融合」をテーマに実践を行った。新学習指導要領との関わりとしては、B鑑賞のア(イ)生活や社会における音楽の意味や役割、イ(イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり、イ(ウ)我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を考え実践を行った。

今回取り上げたジャズやロックなどのポピュラー音楽は、様々な音楽様式の融合により成立し、また発展をしている。しかし、多くの中学生はジャズやロックは融合してできた音楽だと認識していない。そこでまず、ジャズ、ロック、ボサノヴァなどの音楽を鑑賞し、異なる人種がそれぞれの文化を取り入れるという歴史的社会的事象や、他の音楽様式と融合することで、新しい音楽が生まれ、発展できるということを学んだ。次に、歌舞伎や能も様々な音楽文化と融合している例を挙げ、「なぜ異なる音楽は融合するのだろうか、また、あなたは融合することに対してどう思いますか」という設問をした。

<生徒の記述から>

- ・ その時代に合わせて形を変えるために融合するのだと思いました。例えば歌舞伎はできた時は流行の芸能だったけど、今はもう昔の文化になっています。それを今の文化にするため、スーパー歌舞伎や超歌舞伎に形を変えたのだと思いました。これに対して私は、すごく自然なことだと思ったので、どんどん融合して新しい文化ができていくと面白いなと感じました。今、私たちが楽しんでいる文化も何十年、何百年後にどう変わっているかを考えると、すごく興味が湧きました。
- ・ 融合することによってそれぞれの音楽のよさを引き出せるから、このような形で様々なジャンルの音楽に深い関心を持つ人が増えることはいいことです。私は融合することに賛成です。伝統的な音楽だけでなく、その時代のニーズに応えた音楽を作り出していくべきだと思うからです。しかし、融合した音楽だけでなく、伝統的な音楽も受け継いでいくべきです。昔の人の心に触れることで、人生が豊かになるからです。また、融合する前は片方の音楽にしか興味がなかった人も、融合した曲を聴くことで、もう片方の音楽にも関心を持つ人が増えると思うからです。
- ・ 融合するのは良いことだととる人もいるが、良くないと思う人もいる。初音ミクを取り入れた

超歌舞伎も、そういうコンテンツがわからない人には受け入れがたいと思う。だから私は融合するにあたり、そもそもその芸能はどのようなものを尊重し、新しいものはあくまでも付け足しとして入れるべきだと思う。

- ・異なる文化が融合することにより、時代の変化によって形を変えながらも、双方の文化を伝承していくことができるから融合するのだと思いました。ボカロと歌舞伎が融合するなど、片方のファンがもう片方に興味を持つことによって、知る人が増えて、文化の継承につながると思いました。このことについて僕は、伝統的文化の継承、理解者を増やすことができ、とても良いと思いました。

これまで、歌舞伎や能といった我が国の伝統文化の授業を通して、それぞれの良さや魅力を考えてきた。生徒の中には、「超歌舞伎は歌舞伎の良さが半減している」という意見や、「能とクラシックの融合は正直やりすぎだ」といった意見もあった。これは、融合に対する批判的な意見というより、それぞれの文化の良さを理解しているからこそ出た意見と言える。現にこのような意見を持った生徒たちも融合には賛成という意見であった。ほとんどの生徒は、融合に賛成という意見であったが、ただ融合するというのではなく、元の音楽の要素を残したままで融合するべきだ、本来持っている良さが失われない程度に融合するべきだという意見が多かった。歌舞伎や能といった伝統文化の学習が、これからを生きる生徒たちの新たな見方・考え方につながっているのだと実感した。これからも、様々な授業を通して、伝統文化そのものだけでなく、それらを取り巻く様々な背景や文化、人、そしてこれからの未来を見据えていけるものの見方や考え方ができる生徒を育てていきたい。


実践事例

音楽

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">社会・体育・英語・家庭</p>
<p>授業内容</p> <p>様々な歌を歌ったり，それらの背景を学んだりしながら，曲種に応じた発声があることを知り，曲にふさわしい歌い方を探る。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>様々な曲種の雰囲気を感じながら曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持つ。</p> <p style="text-align: center;">【音楽表現の創意工夫】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に対する理解</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>○3～5人のグループを作り，イントロクイズをする。（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここで使う曲は小さい頃に歌ったことがある歌，合唱曲，民謡など。 ・楽しめて歌える雰囲気づくりを心掛ける。 ・それぞれの曲種で歌い方が変わることに気付かせる。 <p>○本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうして曲種によって歌い方が違うのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃歌っていた歌と合唱コンクールの歌を比べてなぜ歌い方を変えたのか尋ね，それぞれの背景や特徴から分析する。また，合唱での歌い方で小さい頃歌っていた歌を歌ってみる（合わないことに気付かせる）。（20） <p>○民謡はどんな歌い方か，再度歌ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱の時の歌い方などとはまた違った歌い方であることに気付かせ，なぜこのような歌い方なのかを民謡の作られた背景を基にグループで探る。（10） <p>○考えを発表する。（8）</p> <p>○次回はゲストティーチャーをお呼びして，民謡の歌い方を学ぶことを伝える。</p> <p style="text-align: right;">（2）</p>	


実践事例

音楽

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">国語・社会</p>
<p>授業内容</p> <p>能と歌舞伎の違いを理解し，能の魅力を探る</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>能の音楽と歌舞伎の音楽の特徴を比較することでそれぞれのよさや美しさ，特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞する。【鑑賞の能力】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>○本時の課題を知る。（5）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>～観能教室に向けて～ 能と歌舞伎の違いを理解し，能の魅力を探ろう</p> </div> <p>○能と歌舞伎の音を比較する。（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・♪その時義経～の戦いの部分を音だけ流す。 ・使われている楽器，声の音色，テクスチャ，その他聴こえてくる音に集中するよう言う。 <p>○気づいたこと，聴こえたことを発表する。（10）</p> <p>○能と歌舞伎を視聴する。（5）</p> <p>○能と歌舞伎の音楽の特徴から能の魅力を探る。（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能と歌舞伎のどちらが気に入ったかを音楽の諸要素を用いて書くよう言う。 またその際，選ばなかった方のよさも書くことで，両方の魅力に気づかせる。 <p>○考えを発表する。（5）</p> <p>○まとめ 振り返り（5）</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  <p style="font-size: small; text-align: center;">太鼓 大鼓 小鼓 能管</p> </div>	

実践事例

音楽

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">国語・社会</p>
<p>授業内容</p> <p>曲に込められた思いを汲み取り，ふさわしい歌唱表現を考える。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図を持つ。【音楽表現の創意工夫】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>③文化の伝承・創造への主体性など</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「花」「花の街」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時を思い出し，難しい旋律やリズムに注意して歌う。 2. 曲に込められた思いを汲み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時のアンケートから様々な考えを紹介し，なぜ「心の歌」を歌うのかに迫る。 ・「花」の歌詞を読む。 ・リズムの違う「花」を聴き，春の美しい情景だけでなく，ワクワクした気持ちがリズムで表されていることをつかむ。 ・特徴的なリズムを感じながら歌う。 ・「花の街」の歌詞を読む。 ・前奏や歌の旋律からどんな印象を受けるか考える。 ・「花の街」のつくられた背景を知る。 ・戦時中，戦後の日本の様子も考えながら，軍歌と「花の街」とを聴き比べる。 ・「花の街」に込められた思いは何か，なぜ教科書に載っているのかについて考える。 3. これまでに学んだことを生かし，「花の街」をどのように歌いたいと考え，歌う。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>	

実践事例

音楽

<p>学年</p> <p>3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p>社会</p>
<p>授業内容</p> <p>様々なポピュラー音楽の成り立ちを知り、「融合」により新しい音楽が生まれ、発展することを学ぶ。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>音楽を形づくっている音色，速度，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，我が国の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。【鑑賞の能力】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>1 ポピュラー音楽を鑑賞する</p> <p>(1) ジャズの成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズ《聖者の行進》を聴く。 ・南北戦争終戦による吹奏楽器普及やヨーロッパの楽器と黒人の音楽の融合によりジャズが成立したことを知る。 <p>(2) ボサ・ノヴァの成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンバ《ブラジル》を聴く。 ・サンバの速度を遅くし，打楽器とギターの音色を変えたデータと比較聴取する ・変化した音楽の諸要素について考える。 ・ボサ・ノヴァ《イパネマの娘》を聴く。 <p>(3) ロックにおける融合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイーンによる《We will lock you》を聴き，使われている楽器に気付く。 ・ビートルズがロックと融合した音楽様式を予想する。 ・《Yesterday》を聴く。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>融合することで発展していくことに気付かせる</p> </div> <p>2 「融合」している音楽について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「越天楽」も「越天楽今様」や「黒田節」などのように形を変えたものもあることを知る。 ・能や歌舞伎も様々なものと融合していることを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>なぜ異なる音楽は融合するのだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して考えたことをワークシートに書く。 	